

**実践団体情報**

記入日	西暦 2019 年 1 月 11 日（2018年度のチャレンジプラン）
実践団体名	兵庫県立淡路高等学校
代表者名	若松明子
プラン全体のタイトル	淡高 ARCH プロジェクト ～高校生が主体となった地域防災の取り組み～
電話番号	0799-82-1137
メールアドレス	13s161322@hyogo-c.ed.jp
実践団体の説明	本校は、阪神・淡路大震災の震源地に隣接する学校として、平成11年度から防災科目を開講しています。現在は主に自然災害とそれに関連する対策を学ぶと共に、地元富島地区から阪神・淡路大震災について学び、地域に貢献することを目指して防災マップの作成や地域での防災イベントに積極的に参加しています。その中でも野島断層保存館での語り部活動には力を入れており、防災科目受講者を中心に毎年実施しています。阪神・淡路大震災から24年が経過し、震災後に生まれた「震災を知らない世代」へ変わり、阪神・淡路大震災を語り継ぐ重要性を感じ、日々の活動に取り組んでいます。
所属メンバー	(代表) 校長：若松明子 (担当) 教諭：齋藤宏紀
活動地域	兵庫県淡路市・洲本市・南あわじ市
活動開始時期・結成時期	平成11年4月
過去の活動履歴・受賞歴	ぼうさい甲子園グランプリ（平成18年1月） ぼうさい甲子園優秀賞（平成22年1月） ぼうさい甲子園奨励賞（平成24年1月） ぼうさい甲子園はばタン賞（平成27年1月）

<p>プラン全体の概要</p>	<p>総合学科である本校の生徒は、2年次から調理系列・花と緑と海のめぐみ系列・ライフサポート系列（地域福祉コース・スポーツコース）・まなび探究系列の4つの系列に分かれて学習しています。それぞれの系列で、将来を見据えた専門的な教育を実践するとともに、すべての系列においてそれぞれの特徴をいかした地域との交流活動・体験活動を行っています。今回その普段から行っている地域交流活動に防災の要素を加えることによって、負担感を少なく気軽に防災活動に取り組むことができるよう「淡高 ARCH プロジェクト～高校生が主体となった地域防災の取り組み～」を立ち上げました。プロジェクト名の ARCH（アーチ）は、</p> <p>Awaji…淡路 Region…地域 Connect…つなぐこと High School…高校</p> <p>の頭文字を使ったものです。本校の生徒や地域の住民にとって神戸市とつながる明石海峡大橋の存在は、日々の生活にかかせないものとなっています。今回のプロジェクトは、地域防災をキーワードに本校生徒が主体となって、生徒自身が本校での学びで身につけた成果を広く地域に発信し、地域と一体となった活動を目指して取り組みたいと考えています。明石海峡大橋の「つながる」イメージを柔らかく表現した ARCH（アーチ）という言葉を使って、4つの系列が手を取り合い、地域とのつながりを深めることによって、阪神・淡路大震災の影響により疲弊した地域に元気を取り戻したいと考えています。</p>
-----------------	--

## プランの年間活動記録

	プランの立案と調整	活動準備	実践活動
4月	年間計画の立案		
5月	北淡震災記念公園開園 20周年イベントに参加	イベントに向け手話の練習	本校オリジナル震災語り継ぎ song「ここに」の手話の披露
6月	「めぐみ市」にて防災啓 発活動を実施	防災マップの準備・確認	地元の街歩きから作成したオ リジナル防災マップの配布
7月	地区別防災 HR の実施	防災メッセ参加に向けた資 料作成	全校生徒が通学区域ごとに分 かれ、地区の危険個所を確認
8月	防災メッセに参加	語り部活動の準備	防災お菓子ポシェット作成
9月	語り部活動実施	中間報告に向けた資料作成	北淡震災公園で語り部を実践
10月	防災啓発活動を実施 中間報告会	防災啓発グッズの準備・確認	「チンげんさいクン」の防災啓 発バッジを配布
11月	前年度実践校との交流 地域の高齢者との交流	総合防災訓練に向けた準備	愛知県立海翔高校との交流 「淡高サロン」の実施
12月	語り部シンポジウム参加	総合防災訓練に向けた準備	防災に関する取組の実践報告
1月	総合防災訓練	最終報告に向けた資料作成	地域住民参加の訓練を実施
2月	最終報告会	アンケートの実施	
3月	決算書作成		


プラン全体の反省点・課題・感想	本校の防災教育は「防災と心のケア」選択者が中心となって実践してきたが、2018年度はARCHプロジェクトにより、防災教育に関わる生徒・教員が増加した。その結果、地域との連携がより深まり、災害時に必要な普段からの信頼関係を築くことができた。しかし、プロジェクトが今年度からの実践であったため、準備や地域との調整が課題となった。
今後の活動予定	今後も普段から行っている地域交流活動を軸として、防災教育活動を進め、専門性にとらわれずに、また実践するにあたって生徒や教員の負担感が少ない長く継続できる防災教育活動を進めていきたい。

## 実践したプランの内容と成果

記入日	西暦 2018 年 5 月 11 日 (2018 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	兵庫県立淡路高等学校
実践番号	①
タイトル	淡路高校オリジナル震災語り継ぎ song「ここに」の歌と手話の披露
実践担当者のお名前	齋藤宏紀

実践にかかった金額	0 円
実践の準備にかかった時間	2 週間
実践活動を実施した日時	西暦 2018 年 5 月 5 日 9 時 30 分～西暦 2018 年 5 月 5 日 10 時 00 分
実践の所要時間	30 分
実践の運営側で動いた人の人数	8 人
防災教育の対象者の属性	小学生 (低学年)・小学生 (高学年)・中学生・高校生・地域住民・社会人/一般・防災関係者
防災教育の対象者の人数	約 100 人
実践を行った都道府県と市区町村	兵庫県 淡路市
実践を行った具体的な場所	北淡震災記念公園
★実践に必要な特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	手話の指導ができる人

達成目標	地域のイベントに参加することによって、日頃の防災教育の成果を地域に伝えるとともに、生徒が地域を愛し、地域に貢献しようとする社会性を身に着けることが目標。	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに

実践内容・方法	<p>〈実践内容〉</p> <p>阪神・淡路大震災から 20 年の節目に作成された本校オリジナルの震災語り継ぎ song「ここに」の手話を披露する。手話に関しては、福祉を中心に学ぶライフサポート系列の授業の中で取り組んだ。まなびの成果として、北淡震災記念公園開園 20 周年の節目に開催されたイベントで披露した。</p>  <p>〈実践にあたって（「ここに」の作成経緯）〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒から阪神・淡路大震災に関するフレーズを集めた。</li> <li>・ミュージシャンに生徒から出されたフレーズをつなぎ合わせてもらい作詞が完成。</li> <li>・ミュージシャンが作曲し完成。</li> </ul>	
得られた成果	<p>今まで校内での発表はあったが、校外での発表は初のチャレンジとなった。地域のさまざまな年代の人たちと関わることによって地域を身近に感じ、地域を愛する心や自己有用感が得られた。</p>	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	かなり
課題・苦勞・工夫	<p>今回のチャレンジは歌詞に合った手話を行った。しかし、観客の方々に歌詞を提示することができなかったため、何かしらの手話を行っているという「動き」の部分は伝わったが、手話が何を表しているかという点にわかりにくい部分があった。</p>	

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	北淡震災記念公園
関係者の説明	阪神淡路大震災で隆起した淡路島の震源に最も近い活断層「野島断層」を保存展示する施設
関係者の連絡先	0799-82-3020

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	学校関係者
伝えたい内容	校外での発表は普段とは違う緊張感があり、生徒の成長につながると思っています。

## 実践したプランの内容と成果

記入日	西暦 2018 年 6 月 20 日 (2018 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	兵庫県立淡路高等学校
実践番号	②
タイトル	販売実習に合わせたオリジナル防災マップ「命をつなぐとしまっぷ」の配布
実践担当者のお名前	齋藤宏紀

実践にかかった金額	0 円
実践の準備にかかった時間	1 週間
実践活動を実施した日時	西暦 2018 年 6 月 18 日 13 時 30 分～西暦 2018 年 6 月 18 日 14 時 30 分
実践の所要時間	4 時間
実践の運営側で動いた人の人数	15 人
防災教育の対象者の属性	地域住民・社会人/一般・高齢者
防災教育の対象者の人数	約 50 人
実践を行った都道府県と市区町村	兵庫県 淡路市
実践を行った具体的な場所	兵庫県立淡路高等学校

達成目標	地域と交流する活動を通して、淡路高校の日頃の防災教育の成果を地域に伝えるとともに、生徒が地域を愛し、地域に貢献しようとする社会性を身に着けることが目標。	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	少し
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	大いに

<p>実践内容・方法</p>	<p>〈実践内容〉</p> <p>農業について学ぶ「めぐみ系列」の生徒が行う販売実習の際に、本校生（防災と心のケア選択者）が地元の街歩きを通して作成した防災マップ「命をつなぐとしまっぷ」を配布し、防災の普及活動を行った。</p>  <p style="text-align: center;">「命をつなぐとしまっぷ」</p> 
<p>得られた成果</p>	<p>防災を主として学んでいない生徒が、普段から行っている地域との交流活動の中に、防災に関する実践を取り入れるというチャレンジを行った。地域の方は野菜の購入の際に、防災マップを受け取ってくれて、みなさん関心を持ってくれた。地域を身近に感じ、地域を愛する心や社会性を身にけることができた。</p>



どのくらい身につきましたか？	知識・技能	少し
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	かなり
課題・苦勞・工夫	何かを新た作り出すのではなく、すでにあるものを有効活用するという工夫をした。今までとは違った場所・形式で防災マップを配布することによって、より広い範囲に防災マップが浸透していくと感じた。	

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	学校関係者
伝えたい内容	現在あるものを有効に活用し、少しの工夫を加えればそれも一つのチャレンジになると思います。

## 実践したプランの内容と成果

記入日	西暦 2018 年 10 月 24 日 (2018 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	兵庫県立淡路高等学校
実践番号	③
タイトル	校外実習に合わせたオリジナル防災キャラクター「チンげんさいくん」を使用した缶バッジ並びに防災検定を配布する啓発・普及活動
実践担当者のお名前	齋藤宏紀

実践にかかった金額	0 円
実践の準備にかかった時間	1 週間
実践活動を実施した日時	西暦 2018 年 10 月 20 日 10 時 00 分～西暦 2018 年 10 月 20 日 15 時 00 分
実践の所要時間	8 時間
実践の運営側で動いた人の人数	15 人
防災教育の対象者の属性	小学生（低学年）・小学生（高学年）・中学生・高校生・地域住民・社会人/一般・防災関係者・全ての人々
防災教育の対象者の人数	約 100 人
実践を行った都道府県と市区町村	兵庫県 南あわじ市
実践を行った具体的な場所	沼島港周辺

達成目標	地域と交流する活動を通して、淡路高校の日頃の防災教育の成果を地域に伝えるとともに、生徒が地域を愛し、地域に貢献しようとする社会性を身に着けることが目標。	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに

実践内容・方法

〈実践内容〉

まなび系列の校外学習の際に、地域住民に防災・減災に関する本校オリジナルキャラクター「チンげんさいくん」を使用した缶バッジ並びに防災検定を配布し、啓発活動に努めた。



缶バッジ






防災検定



〈実践にあたって（チンげんさいくんの作成経緯）〉

- ・生徒からアイデアを募る。
- ・「防災と心のケア」の授業の中でアイデアを組み合わせながら作成。
- ・作成後は、防災を中心に本校のオリジナルキャラクターとしてさまざまな場面で使用。

	<div style="text-align: center;">  <h2 style="margin: 0;">チンげんさいくん</h2> <p style="margin: 0;">チン…鎮める（しずめる） げんさい…（災害を減らす）減災 をかけて「チンげんさいくん」といいます。 いざというときに地域の力となるよう、 困ったときは手を差し伸べられる人にな れるようそんな思いが込められています。</p>   </div> <p>〈実践にあたって（防災検定の作成経緯）〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「防災と心のケア」選択者が授業で学んだことの成果として作成した。</li> <li>・文化祭で使用し、来客者にクイズ形式で考えてもらう企画を行った。</li> </ul>	
<p>得られた成果</p>	<p>防災を主として学んでいない生徒が、地域での交流学习の際に、防災に関する実践を取り入れるというチャレンジを行った。地域の方は喜んで缶バッジや防災検定を受け取ってくれた。淡路高校の防災の取り組みに関して、興味や関心を持ってくれた。地域を身近に感じ、地域を愛する心や社会性を身につけることができた。</p>	
<p>どのくらい身につきましたか？</p>	<p>知識・技能</p>	<p>かなり</p>
	<p>思考力・判断力・表現力</p>	<p>かなり</p>
	<p>学びに向かう力・人間性</p>	<p>かなり</p>
<p>課題・苦勞・工夫</p>	<p>地域の方の協力もあって、防災の啓発・普及活動は十分な成果があったと感じるが、今後その意識の向上をどのように継続・発展させていくかという課題が残った。</p>	

<p>★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ</p>	
<p>伝えたい相手</p>	<p>学校関係者</p>
<p>伝えたい内容</p>	<p>現在あるものを有効に活用し、少しの工夫を加えればそれも一つのチャレンジになると思います。</p>

## 実践したプランの内容と成果

記入日	西暦 2019 年 1 月 18 日 (2018 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	兵庫県立淡路高等学校
実践番号	④
タイトル	地域住民と一体となった総合防災訓練
実践担当者のお名前	齋藤宏紀

実践にかかった金額	10 万円未満
実践の準備にかかった時間	1 週間
実践活動を実施した日時	西暦 2019 年 1 月 17 日 12 時 45 分～西暦 2019 年 1 月 17 日 15 時 00 分
実践の所要時間	2 ヶ月
実践の運営側で動いた人の人数	30 人
防災教育の対象者の属性	幼児/保育園児・中学生・高校生・地域住民・社会人/一般・防 災関係者・その他
防災教育の対象者の人数	約 700 人
実践を行った都道府県と市区町村	兵庫県 淡路市
実践を行った具体的な場所	兵庫県立淡路高等学校

達成目標	地域と連携した総合的な防災訓練を実施し、避難所シミュレーションや防 災・減災を図る方法等を体験することによって、地域の防災意識を高める。	
どの力を身につけよ うとしましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに

<p>実践内容・方法</p>	<p>〈総合防災訓練実践内容〉</p> <p>日時 平成 31 年 1 月 17 日 (木)</p> <p>目的 ①地震・津波を想定した避難訓練を通して、非常時において自ら判断し行動できる態度を養う。</p> <p>②2次災害の防止や避難所運営などさまざまな体験活動を地域住民とともに行う中で、防災・減災の意識を高める。</p> <p>班別一覧</p> <table border="1" data-bbox="464 685 1366 1592"> <thead> <tr> <th>班名</th> <th>H30の内容</th> <th>場所</th> <th>協力団体</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本部班</td> <td>対策本部の設置と役割</td> <td>視聴覚室(3F)</td> <td>人と防災未来センター</td> </tr> <tr> <td>保育班</td> <td>災害時の幼児の避難</td> <td>家庭科室</td> <td>北淡こども認定園</td> </tr> <tr> <td>非常食班</td> <td>非常食づくり</td> <td>家庭科調理室</td> <td>2年本校調理系列</td> </tr> <tr> <td>炊き出し配布班</td> <td>訓練後におにぎり、豚汁、カンパン配布</td> <td>集団調理室・中庭</td> <td>3年本校調理系列</td> </tr> <tr> <td>避難所運営班</td> <td>避難所運営とルールづくり</td> <td>2F選択教室</td> <td>防災士会</td> </tr> <tr> <td>ボランティア受け入れ班</td> <td></td> <td>3年1組</td> <td>福祉協議会</td> </tr> <tr> <td>国際対応班</td> <td>外国人のケア</td> <td>3年2組</td> <td>ミツ精機(株)</td> </tr> <tr> <td>防疫対策班</td> <td>災害時の防疫対策、感染症予防</td> <td>3年3組</td> <td>淡路市役所</td> </tr> <tr> <td>家庭の安全対策班</td> <td></td> <td>3年4組</td> <td>人と防災未来センター</td> </tr> <tr> <td>ケアー班</td> <td>災害の人のケア</td> <td>図書室</td> <td></td> </tr> <tr> <td>広報班</td> <td>災害時、広報誌の作成</td> <td>会議室・PC室</td> <td>淡路市広報課</td> </tr> <tr> <td>通信班</td> <td>災害時の情報伝達手段</td> <td>PC教室</td> <td></td> </tr> <tr> <td>初期消火班</td> <td>バケツリレーによる消火活動</td> <td>生徒集会所</td> <td>富島消防団</td> </tr> <tr> <td>風水害班</td> <td>風水害時の対処法</td> <td>食堂・砂場周辺</td> <td>自衛隊</td> </tr> <tr> <td>テント・ロープ利用班</td> <td>ロープ利用の応用</td> <td>食堂・砂場周辺</td> <td>自衛隊</td> </tr> <tr> <td>防犯対策班</td> <td>避難所の防犯、無人化した家の防犯</td> <td>体育館</td> <td>淡路警察生活安全課</td> </tr> <tr> <td>救援物資仕分け班</td> <td>救援物資の仕分け</td> <td>体育館</td> <td></td> </tr> <tr> <td>救急及び応急処置班</td> <td>負傷者の応急処置</td> <td>体育館</td> <td>広域消防</td> </tr> <tr> <td>耐震構造学習班</td> <td>建築物の耐震構造を学ぶ</td> <td>農業実習室</td> <td>建築士事務所協会</td> </tr> <tr> <td>衛生環境班</td> <td>段ボールトイレの製作・ごみ処理</td> <td>多目的</td> <td></td> </tr> <tr> <td>避難誘導班</td> <td>福祉施設が災害にあった場合の対応</td> <td>多目的</td> <td>社会福祉協議会</td> </tr> <tr> <td>ライフライン班</td> <td>安全な水の確保</td> <td>理科室</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>時程</p> <p>1～4 限 40分授業</p> <p>12:00 昼休み ※生徒は体操服に更衣しておく。</p> <p>12:45 5限目の教室で待機。</p> <p>12:50 地震発生 授業担当者：安全確保→避難誘導→安否確認 授業以外者：安全確保→情報収集→避難指示</p>	班名	H30の内容	場所	協力団体	本部班	対策本部の設置と役割	視聴覚室(3F)	人と防災未来センター	保育班	災害時の幼児の避難	家庭科室	北淡こども認定園	非常食班	非常食づくり	家庭科調理室	2年本校調理系列	炊き出し配布班	訓練後におにぎり、豚汁、カンパン配布	集団調理室・中庭	3年本校調理系列	避難所運営班	避難所運営とルールづくり	2F選択教室	防災士会	ボランティア受け入れ班		3年1組	福祉協議会	国際対応班	外国人のケア	3年2組	ミツ精機(株)	防疫対策班	災害時の防疫対策、感染症予防	3年3組	淡路市役所	家庭の安全対策班		3年4組	人と防災未来センター	ケアー班	災害の人のケア	図書室		広報班	災害時、広報誌の作成	会議室・PC室	淡路市広報課	通信班	災害時の情報伝達手段	PC教室		初期消火班	バケツリレーによる消火活動	生徒集会所	富島消防団	風水害班	風水害時の対処法	食堂・砂場周辺	自衛隊	テント・ロープ利用班	ロープ利用の応用	食堂・砂場周辺	自衛隊	防犯対策班	避難所の防犯、無人化した家の防犯	体育館	淡路警察生活安全課	救援物資仕分け班	救援物資の仕分け	体育館		救急及び応急処置班	負傷者の応急処置	体育館	広域消防	耐震構造学習班	建築物の耐震構造を学ぶ	農業実習室	建築士事務所協会	衛生環境班	段ボールトイレの製作・ごみ処理	多目的		避難誘導班	福祉施設が災害にあった場合の対応	多目的	社会福祉協議会	ライフライン班	安全な水の確保	理科室	
班名	H30の内容	場所	協力団体																																																																																										
本部班	対策本部の設置と役割	視聴覚室(3F)	人と防災未来センター																																																																																										
保育班	災害時の幼児の避難	家庭科室	北淡こども認定園																																																																																										
非常食班	非常食づくり	家庭科調理室	2年本校調理系列																																																																																										
炊き出し配布班	訓練後におにぎり、豚汁、カンパン配布	集団調理室・中庭	3年本校調理系列																																																																																										
避難所運営班	避難所運営とルールづくり	2F選択教室	防災士会																																																																																										
ボランティア受け入れ班		3年1組	福祉協議会																																																																																										
国際対応班	外国人のケア	3年2組	ミツ精機(株)																																																																																										
防疫対策班	災害時の防疫対策、感染症予防	3年3組	淡路市役所																																																																																										
家庭の安全対策班		3年4組	人と防災未来センター																																																																																										
ケアー班	災害の人のケア	図書室																																																																																											
広報班	災害時、広報誌の作成	会議室・PC室	淡路市広報課																																																																																										
通信班	災害時の情報伝達手段	PC教室																																																																																											
初期消火班	バケツリレーによる消火活動	生徒集会所	富島消防団																																																																																										
風水害班	風水害時の対処法	食堂・砂場周辺	自衛隊																																																																																										
テント・ロープ利用班	ロープ利用の応用	食堂・砂場周辺	自衛隊																																																																																										
防犯対策班	避難所の防犯、無人化した家の防犯	体育館	淡路警察生活安全課																																																																																										
救援物資仕分け班	救援物資の仕分け	体育館																																																																																											
救急及び応急処置班	負傷者の応急処置	体育館	広域消防																																																																																										
耐震構造学習班	建築物の耐震構造を学ぶ	農業実習室	建築士事務所協会																																																																																										
衛生環境班	段ボールトイレの製作・ごみ処理	多目的																																																																																											
避難誘導班	福祉施設が災害にあった場合の対応	多目的	社会福祉協議会																																																																																										
ライフライン班	安全な水の確保	理科室																																																																																											

- 13 : 10 阪神・淡路大震災の犠牲者に対し黙祷を行う。講評。
- 13 : 15 総合防災訓練班別に整列する。
- 13 : 30 総合防災訓練班別に整列する。
- 14 : 30 班別訓練終了後、炊き出し班の豚汁を受け取る。
- 15 : 00 閉会式

当日の様子



国際対応班



こころのケア班



風水害班



炊き出し班





得られた成果	淡路高校が主体となる防災訓練に幅広い年代の地域住民が参加するというチャレンジであった。地域のさまざまな年代の人たちと関わることによって地域を身近に感じることができた。また、防災をさまざまな面からとらえる班別の防災訓練を行うことによって地域の防災意識や対応能力が高まった。	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	かなり
課題・苦労・工夫	非常に多くの人数かつ年代や所属もさまざまということもあり、実施までの準備や調整に苦労した。実施して終わりではなく、成果をまとめるとともに反省を今後にどういかしていくかが課題となった。	
★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ		
伝えたい相手	学校関係者	
伝えたい内容	地域との交流は、生徒にとっても地域住民にとっても両方にメリットがあります。	